

鹿島港は配合飼料(とうもろこし等)の輸入量が全国トップクラス —飼料・穀物や石油化学・鉄鋼等の基幹産業の海上輸送基地—



●鹿島港は、昭和38年に重要港湾に指定され掘込式港湾として建設工事を進め、昭和44年に開港いたしました。

●これまで、航路や防波堤など港湾施設整備を着実に進めてきた結果、飼料・穀物などを扱う企業や石油化学・鉄鋼等の基幹産業など約160社が立地する我が国でも重要な港湾施設になりました。特に、穀物の輸入量については全国第1位であり、国民生活の安定に大きく貢献しています。

●年間取扱貨物量

・平成19年 **6,522万トン**(全国第14位)

①穀物520万トン(港湾別では**全国第1位**)

・配合飼料を年間**400万トン**生産・関東地域へ供給
(港湾別:**全国第1位**、全国需要:**1/6**)

※配合飼料とは、とうもろこしや大豆カスなどをブレンドしたもので、人の食料となる豚や鳥などを育てるエサ

②原油840万トン(**全国第8位**)

・国家備蓄原油100万キロリットルを貯蔵(民間施設で6番目の規模)

③鉄鋼は、1,350万トン(**全国第5位**)

・粗鋼生産量**約790万トン**(日本で**5番目**の規模の製鉄所)

●鹿島地域の製造品出荷額等は、**2兆4,535億円**(H20)

(茨城県全体の1/4を占める、奈良県や岩手県に匹敵)

整備前(昭和37年頃)の鹿島地域
(広大な農地が広がっている)

